金沢城二の丸御殿の復元整備

石川県

加賀百万石の栄華の象徴　金沢城二の丸御殿

およそ390年前の江戸時代前期に創建され、加賀藩の政治・文化の中枢であった金沢城二の丸御殿。
明治14年の焼失から140年を経た令和3年、復元整備の取り組みが始動しました。

沿　革

金沢城は江戸時代を通じて最大の大名であった加賀藩前田家の居城となった近世城郭で、現在は金沢城公園として親しまれています。

初期の城郭は本丸を中心とした城づくりが行われましたが、寛永8年（1631）の大火を機に中心は二の丸に移り、同年には大規模な御殿が創建され、以後、藩主の住まいや政務の場として城の中枢を占めていました。

御殿は江戸時代においても二度の火災による焼失・再建を経て姿を変えながら、幕末・維新期まで御殿としての役割を担い続けていました。

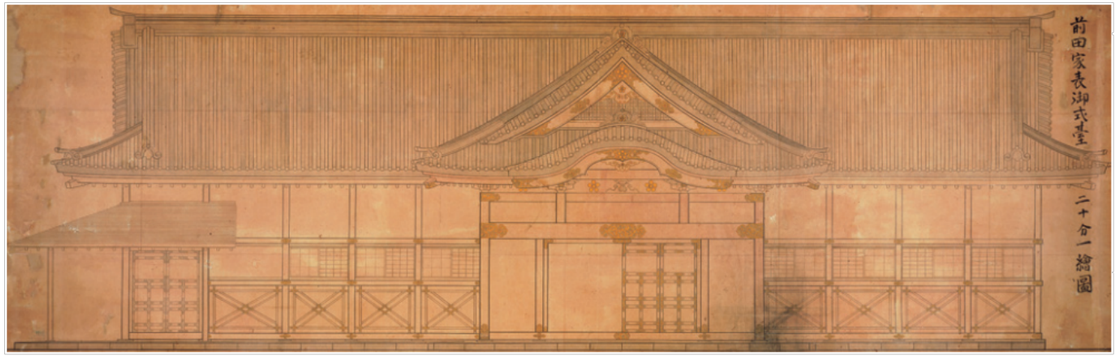
明治4年（1871）の廃藩後は新政府（兵部省、のち陸軍省）の管轄に置かれ御殿建物は兵舎として利用されていましたが、明治14年（1881）に失火により焼失し、近世以来の威容は失われました。

江戸後期の金沢城絵図　「御城中壱分碁絵図」
（横山隆昭家蔵）に加筆

金沢城公園全景
（令和２年10月撮影）

二の丸御殿の特徴

二の丸御殿は、二の丸の敷地全体に広がる城内最大の建物でした。江戸後期の絵図等の史料によると、約3,200坪の規模で60を超える部屋で構成され、儀礼や政務の場である「表向（おもてむき）」、藩主の日常の生活空間である「御居間廻り（おいままわり）」、女性たちが居住する「奥向（おくむき）」の大きく3つに区分でき、数多くの飾（かざり）金具や著名な絵師による障壁画などの装飾に彩られた豪華絢爛な建物であったことが明らかになっています。



江戸後期の御殿の玄関・式台の外観を描いた立面絵図　「金沢城二之丸御式台絵図」（金沢市立玉川図書館蔵）

二の丸御殿の構成

表向（おもてむき）

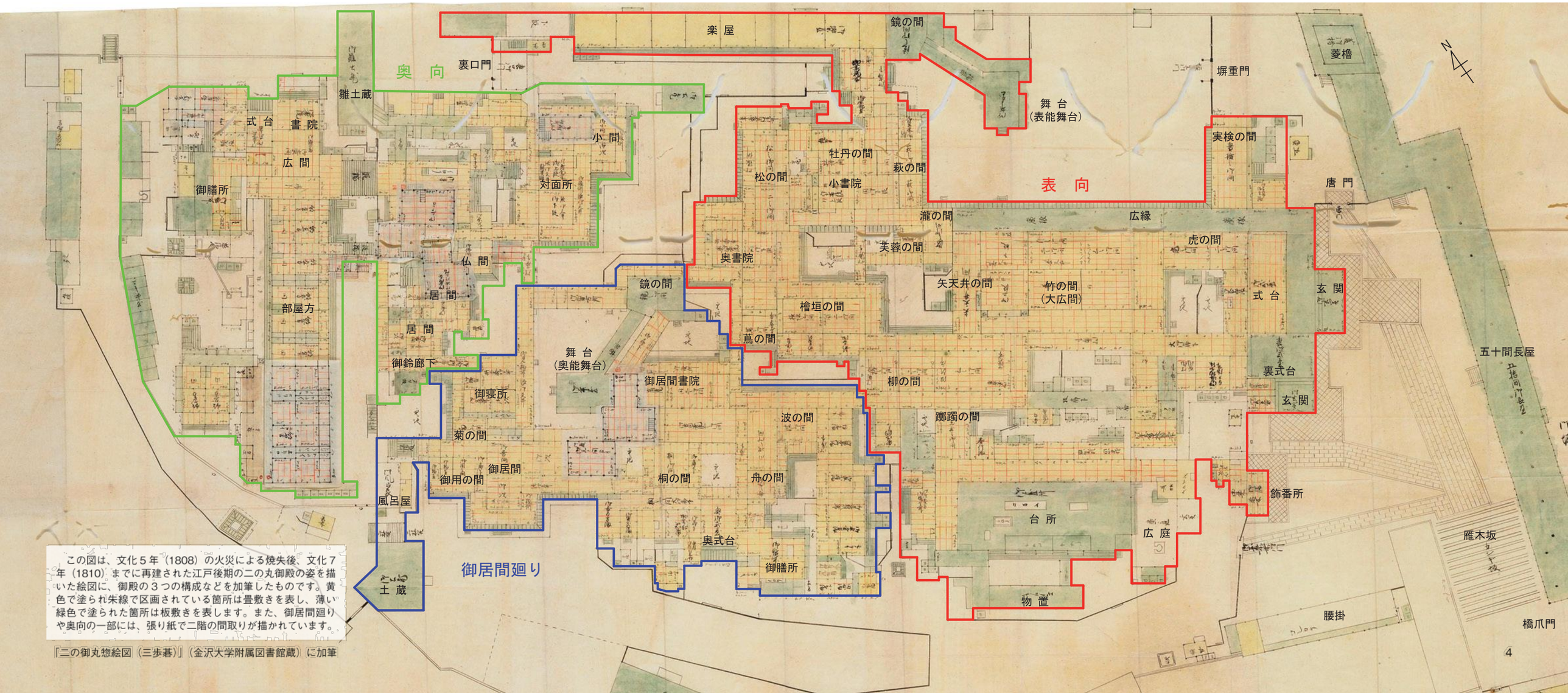
表向は儀礼や政務の空間で、「玄関」は東に面し、これに続き「式台」、待合の空間である「虎の間」、建物から張り出した「実検（じっけん）の間」などが置かれました。中央に配置される大広間「竹の間」は年頭儀礼などが行われ、御殿の中で最も規模の大きい空間でした。西側には対面儀礼に用いられた書院や執務のための諸室、北側には能舞台や楽屋（がくや）などが置かれました。南側には大規模な「台所」があり、主に板敷きになっていました。また、橋爪門から玄関の間は、「雁木坂（がんぎざか）」と呼ばれる石段が設けられ、その先には石畳の通路が敷かれていました。

御居間廻り（おいままわり）

御居間廻りは藩主の居住空間で、南に面し「奥式台」と呼ばれる玄関が設けられていました。東側は藩主に仕える家臣等が控える間、西側は藩主が執務にあたる「御用の間」、生活の場である「菊の間」や「御寝所（ごしんじょ）」などが置かれ、一部二階建てとなっていました。また、江戸後期の御殿には御居間廻りにも能舞台が置かれました。

奥向（おくむき）

奥向の東側は藩主の母や側室、子女の生活する居間や、謁見の間である「対面所」などで構成され、一部二階建てでした。西側は「部屋方（へやかた）」と呼ばれ、御殿で働く女性たちが居住する集合住宅のような間取りになっていました。奥向と御居間廻りは「御鈴廊下（おすずろうか）」で接続され、出入りが厳重に制限されていました。

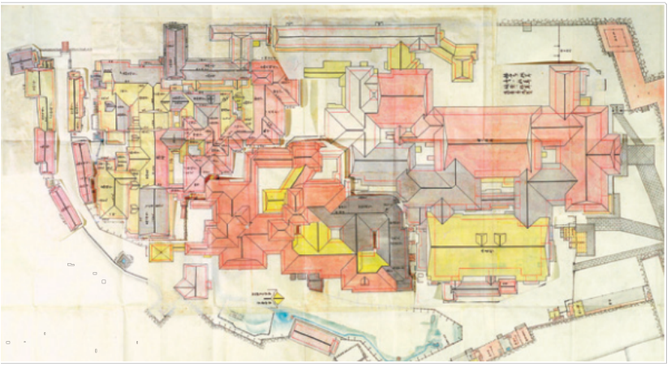


「二の御丸惣絵図（三歩碁）」（金沢大学附属図書館蔵）に加筆

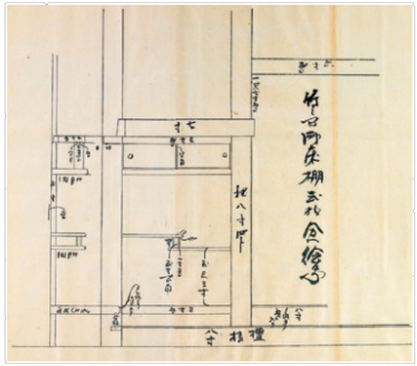
史料に残る二の丸御殿

●絵図

二の丸御殿を描いた絵図が豊富に確認されています。平面絵図だけでも約80点が確認されており、屋根伏せを描いたものや寸法が記載されたもの、障壁画の画題や絵師が記載されたものも確認されています。また、玄関・式台の外観を描いた立面絵図や、内装（棚や床の造り）を描いた図面も確認されています。



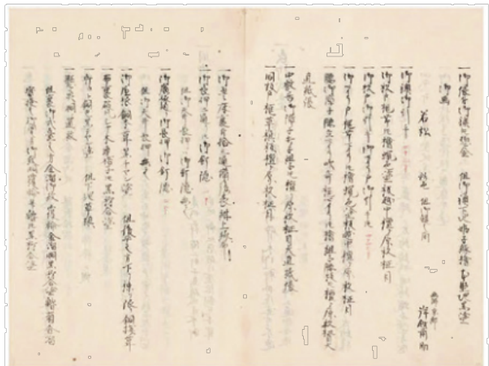
屋根伏せを描いた絵図　「金沢城二之御丸三歩碁図B」（石川県立図書館蔵）



棚や床を描いた図面（部分）「二ノ丸御殿関連史料（竹の間・小書院内装図集）」（石川県立歴史博物館蔵）

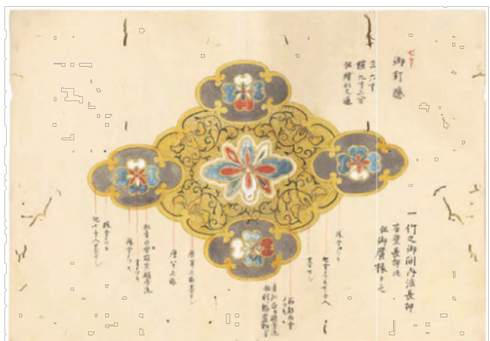
●文献

造営にあたった奉行の日誌である「御造営方日並記」や、御大工が作成した建物の仕様書にあたる「二之御丸御殿御造営内装等覚及び見本・絵形」など、江戸後期の再建時の記録が豊富に残されています。仕様書は4冊組で、各部屋の材料や仕上げなどの詳細が記載される他、釘隠や引手など飾金具の詳細な図面や、壁などに張られた唐紙の見本も収録されています。このような仕様書がまとまった形で残るのは大変珍しく、貴重な資料とされています。

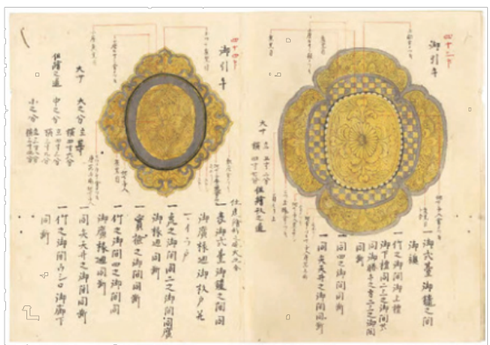


仕様の記載

壁や襖に張られた唐紙の見本



飾金具（釘隠）の絵形

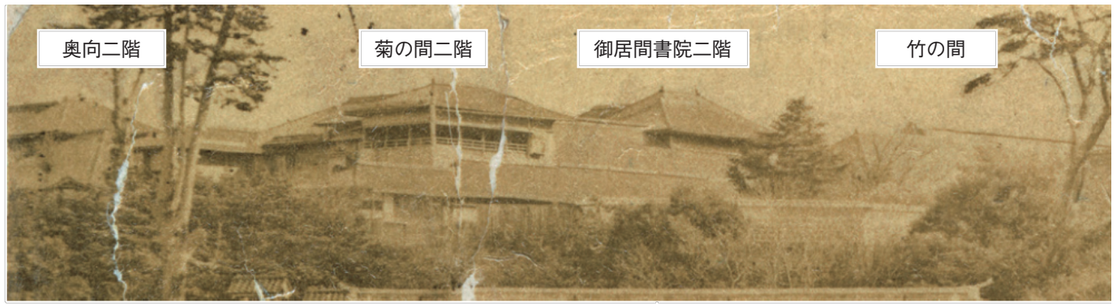


飾金具（引手）の絵形

「二之御丸御殿御造営内装等覚及び見本・絵形」（一例）（金沢市立玉川図書館蔵）

●古写真

御殿の姿が部分的に写る明治初期の写真が数点確認されており、建物の外観や大きさが確認できます。



現在の尾山神社方面から写された明治初期の写真（部分）（金沢市立玉川図書館蔵）

●移築された建築物

玄関脇にあった「唐門」や奥能舞台の欄間、書院の格天井など、明治14年（1881）の焼失以前に部分的に移築された建築遺構が金沢市内に見られ、往時の御殿の意匠を確認することができます。

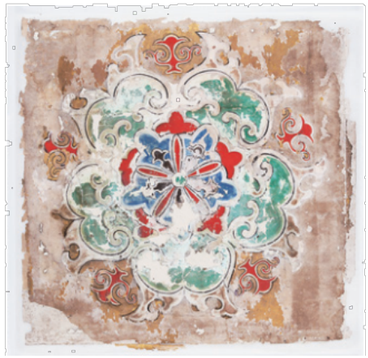
御殿玄関脇の「唐門」を移築（尾山神社東神門）

御殿の奥能舞台と表向の「小書院」の格天井を移築（中村神社拝殿）

奥能舞台の欄間「雲水之龍」（中村神社拝殿）

●絵画に関する史料

移築された書院の格天井に描かれていた2枚の天井画が金沢市内に残されています。この他にも、御殿の壁や襖、天井には数多くの障壁画が描かれていたことが絵図や文献史料から明らかになっており、加賀藩出身の絵師である岸駒・岸岱父子や、江戸城の障壁画に携わる狩野派絵師、地元で藩の御用を務める絵師らが制作にあたりました。



表向「小書院」の格天井に張られていた絵画（中村神社蔵）

二の丸御殿の復元整備に向けた基本方針

●復元の意義

二の丸御殿の復元は、御殿の規模や構成並びに外観や内部の意匠から、往時の匠の技や文化、芸術を体感し、金沢城の歴史・文化を追体験するうえで大きな効果をもたらすとともに、二の丸を中心とする階層的な城郭構造など、金沢城の城郭としての機能や役割の理解のうえでも重要な意義を持つものです。

さらに、特別名勝庭園の兼六園とともに本県を代表する歴史・文化・観光交流の拠点である金沢城公園の価値や魅力、ひいては本県の誇る質の高い文化の魅力を大きく高めるものです。

また、伝統的な建造技術や藩政期から息づく伝統的な工芸技術により御殿の建築や内外装を再現することは、これまでの復元整備で培われてきた本県の匠の技や全国に誇る伝統工芸の技を発揮し、次代に継承するうえでも大きな役割を果たすことが期待されます。

●復元の目的

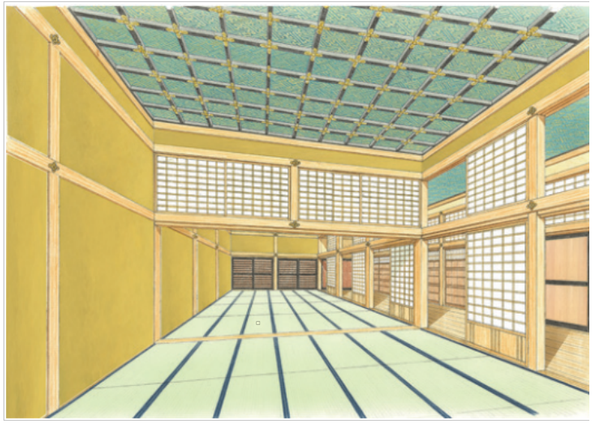
- 二の丸御殿の復元により県民共有の財産である金沢城の価値や魅力を格段に高め、本県の新たなシンボルとして、県民をはじめとする多くの方々に、より親しんでいただくとともに魅力を国内外に発信します。
- 調査研究に基づく質の高い取り組みを通じ、金沢城の歴史・文化への理解をより深めていただき、史跡の確実な保存・継承に資するものとします。
- 藩政期から息づく伝統的建造技術や伝統工芸の研鑽・継承の場としての活用を図ります。

二の丸御殿「表向」主要部の復元イメージ　赤字は第１段階で整備する範囲　青字は第２段階以降整備する範囲

儀礼や政務の場であった「表向」はさらに複数の棟に分けられ、各棟の屋根が複雑に組み合わされた建物でした。屋根の素材も棟によって使い分けられており、玄関・式台や竹の間は木型を銅板で覆う「銅瓦」が用いられ、その表面には「黒チャン塗り」と呼ばれる保護塗装が施されたことが史料から明らかになっています。

玄関・式台の復元イメージ

玄関は総ケヤキ造りで、外装には多くの飾金具や前田家の家紋である梅鉢紋が取り付けられ、梁の上には「波に犀（さい）」を題材とする欄間彫刻が設置されていました。天井は格式の高い折上格（おりあげ）天井で、玄関の床板は春慶（しゅんけい）塗り（赤みのある透明な漆塗り）で仕上げられていました。



虎の間の復元イメージ

虎の間は竹の間（大広間）の待合の部屋で、壁は総金箔張りで加賀藩出身の絵師「岸駒（がんく）」による虎の絵が描かれていました。壁には３匹、２箇所の杉戸にはそれぞれ１匹が描かれ、合計５匹の虎が描かれていたことが史料から明らかになっています。

●復元整備の方針

復元整備にあたっては、次の5つの方針に沿って取り組みを進めます。

史実性の高い復元整備
- 江戸後期の絵図や内外装の仕様を記した史料など、質の高い史料や埋蔵文化財調査の結果に基づき、史実性の高い復元整備を目指します。
- 復元整備の時代設定は、現存する建造物と景観年代が整合し写真資料等が残る江戸後期とします。

伝統工法、伝統工芸の活用
- 木造の伝統工法による復元整備を基本とし、利活用のため必要な範囲内で構造補強、防災設備、バリアフリー等の現代工法を用います。
- 内外装の仕上げや装飾には伝統工芸を活用し、史料等に基づく質の高い再現を目指します。

御殿ならではの特徴の再現
- 御殿建築の特徴と言える飾金具や唐紙等について、史実を尊重した復元整備を目指します。
- 御殿ならではの装飾である障壁画、天井画、欄間等については、再現範囲を検討のうえ、史料から得られる情報を参考に類例から意匠を推定するなど、史実を尊重した制作方法による再現を目指します。

技術の研鑽、継承の場としての活用
- 二の丸御殿の復元整備を、本県の文化を支える伝統的建造技術や伝統工芸技術の研鑽・継承の場と捉え、技能者が技を磨き次代に継承できる場として活用を図ります。

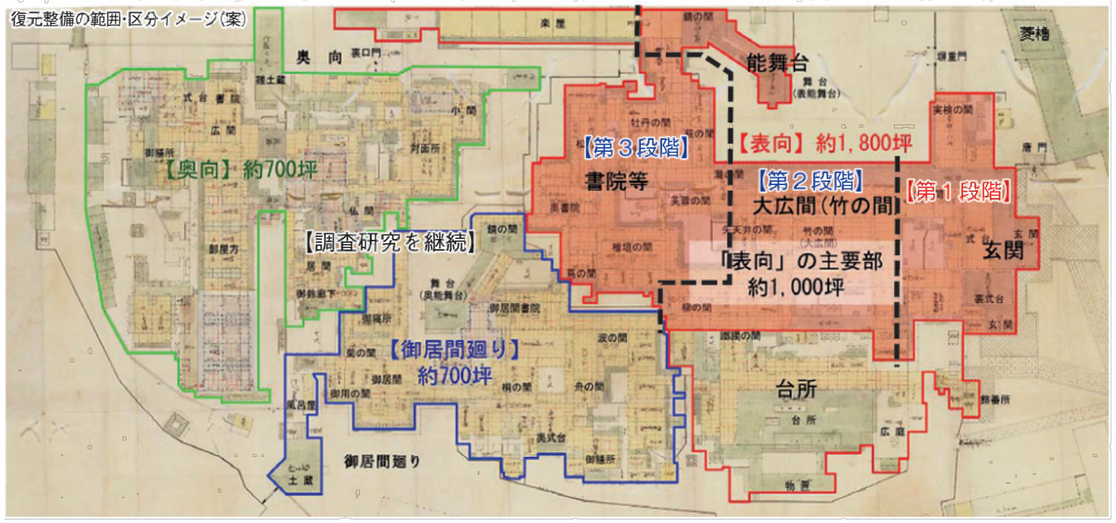
県民参加による復元整備
- 復元整備作業の公開など情報発信の取り組みや、県民参加による取り組みを積極的に行い、多くの方に金沢城への愛着を深めていただけるよう努めます。

●調査・整備の進め方

復元整備は、江戸後期を通じて変化が少なく史実性の高い復元が可能とされる「表向」を先行し、中でも、御殿ならではの装飾が数多く施されていた玄関・大広間・書院等が配置される主要部を対象とします。

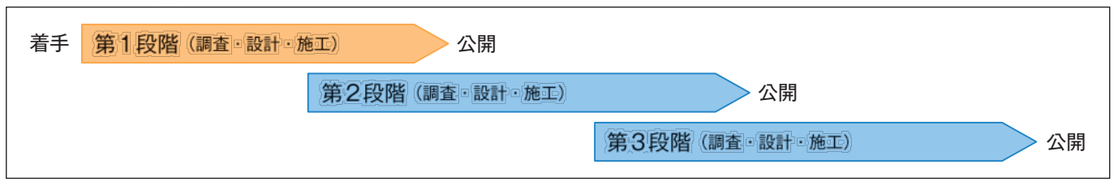
「表向」の台所や「御居間廻り」、「奥向」などは、今後も調査研究を継続し史実の解明に努め、建造物の復元以外の整備を検討します。

復元整備は、「表向」の主要部をさらに区分して段階的に取り組むこととし、各段階における調査・設計・施工の工程を重ねることにより効率的に進めます。



「二の御丸惣絵図（三歩碁）」（金沢大学附属図書館）に加筆

工程イメージ（案）



●利活用の方針

御殿が持つ歴史的・文化的な役割や機能の理解を深めていただくため建物内部を公開します。また、金沢城の歴史・文化を学ぶ拠点として、講座や体験の場などの活用を図ります。

公開の事例（金沢城鼠多門）

活用（講座）の事例（佐賀城本丸歴史館）

●復元整備作業の公開

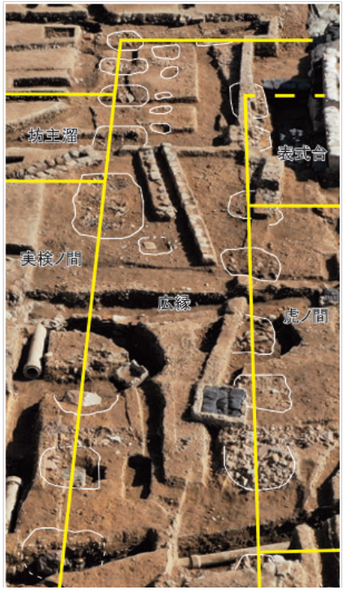
御殿の復元整備作業の過程そのものを魅力と捉え、工程の節目節目に工事現場や製作の様子を公開する機会を設けるなど、様々な情報発信に取り組みます。

工事見学台の設置事例（鼠多門）

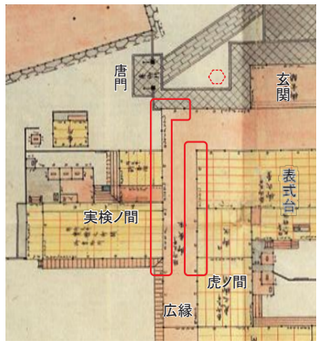
工事見学会の開催事例（鼠多門）

復元整備に向けた埋蔵文化財調査

大学校舎が建っていなかった箇所では、現在の地盤から約 1m 下に御殿の遺構面を確認することができ、礎石の痕跡や石製構造物などが確認されています。また、過去に金沢大学等が広範囲で発掘調査を実施しており、御殿の遺構が確認されています。



広縁両側の礎石基礎列



遺構の位置と絵図
「金沢城二之御丸三歩碁図Ｂ」（部分・加筆）
石川県立図書館蔵

礎石基礎の断面

金沢城年表（二の丸御殿関係）

天文15年	1546	本願寺の拠点として金沢御堂が創建される
天正８年	1580	金沢御堂が織田信長の軍勢に攻められ陥落、佐久間盛政が最初の金沢城主となる
天正９年	1581	前田利家（加賀前田家初代）が信長より能登国を与えられ七尾城に入る
天正11年	1583	利家、北加賀二郡の加増を受け金沢城に移る
天正14年	1586	この頃天守が造営される
慶長７年	1602	天守が落雷で炎上する
寛永８年	1631	大火による本丸御殿の焼失を機に、3代利常（としつね）が二の丸を拡張し御殿を新たに造営する
寛永９年	1632	辰巳用水を城内に引水する
宝暦９年	1759	大火により御殿を含め城の大半が焼失する
宝暦11年	1761	御殿の再建に着手する
宝暦13年	1763	10代重教（しげみち）、再建した御殿に入る
安永２年	1773	御殿の玄関・式台・虎の間等に着手する
天明８年	1788	石川門を再建する
文化５年	1808	大火により御殿が焼失、再建に着手する
文化６年	1809	12代斉広（なりなが）、再建した御殿に入る
文化７年	1810	御殿の造営が完了する
文政３年	1820	勝千代（のちの13代斉泰（なりやす））、御居間書院に移る
嘉永元年	1848	東の丸附段に土蔵を建設する
安政元年	1854	真龍院（斉泰の母）が松の御殿（金谷出丸）から二の丸御殿に移る
安政５年	1858	三十間長屋を再建する
文久３年	1863	溶姫（よう）（斉泰の正室）、江戸から金沢城（二の丸御殿）に移る
明治２年	1869	14代慶寧（よしやす）、御殿を出て重臣本多家の屋敷に移る
明治４年	1871	廃藩置県により御殿は兵部省の所管となる
明治14年	1881	失火により旧二の丸御殿や菱櫓・五十間長屋などが焼失する
明治31年	1898	二の丸跡に第九師団司令部庁舎が新たに建設される
昭和38年	1963	二の丸跡に金沢大学法文学部校舎が建設される
平成13年	2001	金沢城公園が開園する
平成30年	2019	石川県が金沢城二の丸御殿調査検討委員会を設置
令和３年	2021	「金沢城二の丸御殿の復元整備に向けた基本方針」を策定
		二の丸御殿の復元整備事業に着手、金沢城二の丸御殿復元整備専門委員会を設置

◆金沢城公園の利用案内

開 園 日　年中無休

開園時間
- ●3月1日～10月15日　7：00～18：00
- ●10月16日～2月末日　8：00～17：00
- ●毎日21時までライトアップ（夜間開園）を開催
  （入園口：石川門口、鼠多門口、玉泉院丸口）

園内施設営業時間
- ●菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓・橋爪門（有料）
- ●河北門、鼠多門（無料）
- ●玉泉庵（呈茶有料）
  9：00～16：30（最終入館16：00）
  ※12月29日～1月3日休館

◆復元整備に関するお問い合わせ

石川県土木部公園緑地課金沢城二の丸御殿復元整備推進室
〒920-8580　石川県金沢市鞍月１丁目１番地
TEL 076-225-1774 / FAX 076-225-1773

2022年１月発行